

試行・検証等のテーマ

不登校や様々な困難を抱えた児童生徒のための自然体験活動
～楽しく活動しながら 友だちの輪を広げよう～

背景・課題

県内の不登校児童生徒数が令和4年度小学校が2,066人、中学校が4,122人と増加し、全国平均を上回り過去最高となっている。不登校児童生徒数は10年連続で増加しており早期の対策が必要となっている。

また、経済的困窮家庭や一人親家庭等の増加や新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、家庭で過ごす時間が多くなり自然体験活動等の直接体験の不足、コミュニケーション不足などが課題となっている。

事業のねらい

自然体験活動を中心にプログラムを設定し、直接体験や人とのかかわりを深め、不登校や不登校傾向等、行きづらさを感じながら一歩踏み出そうとしている児童生徒の社会的自立や学校生活へのきっかけにする。

事業内容

- 1 実施期間
令和5年12月23日（土）～27日（水）
4泊5日

- 2 実施場所
宮城県松島自然の家
- 3 参加者、人数（定員20人）
小学生19人、中学生6人 合計25人

- 4 主な活動内容
 - ・MAP（人間関係づくり）
 - ・自然体験活動（ハイキング）
 - ・地域の特性を生かした体験活動（漁業体験）
 - ・創作活動（空き缶ランタン、勾玉作り）
 - ・読書活動

- 5 体験活動等の支援者
生涯学習課職員
松島自然の家の職員
大学生ボランティア
- 6 その他

事前説明会・体験会

①令和5年10月29日（日）

②令和5年11月19日（日）

場所：①②宮城県松島自然の家

内容：趣旨説明、施設見学、ニュースポーツ体験
（この後に参加の有無を決めてもよいこととした）



「生きる力」の育成

※別紙アンケート参照

- 実施前、実施後、事後（1か月後）の3回アンケート調査を行い、データを分析した。
- 分析により長期の宿泊を伴う自然体験活動を行うことで、人との関わり、自立心が育まれ、「生きる力」の向上が見られた。
- 事後アンケートの結果により、教育効果が持続していることが分かった。

「生きる力」の変容（得点範囲：28～168点）



成果・課題

○成果

- ・事前の打ち合わせ等を充実させたことで、参加者が達成感や自己肯定感を感じられる活動内容、適切な支援について情報共有しながら実施できた。
- ・ゆったりとした時間設定ではあるものの、日を追うごとに活動の量の調整、チャレンジする体験を組み立てることで、無理なく参加でき、「できた」を実感することができた。
- ・選択肢の中から自分で選択して、休憩時間を過ごすことで「自分の居場所」を作ることができた。また自己選択の機会となり、「自分で決める」経験をすることができた。
- ・大学生ボランティアを児童生徒のサポート役とした体制作りをしたことにより、児童生徒は安心して活動に取り組むことができた。
- ・「人目を避けて登校していたが、友達のいる時間に登校するようになった」等、前向きに活動できた参加者がたくさんいた。また、スクールカウンセラーから、「参加した児童が学校に登校できるようになった等の変容がみられた」との報告があった。

○課題

- ・ICTを活用した学習支援・・・各市町村のセキュリティ等を確認し事業の中で活用できるようにする。
- ・教育効果を持続させていくために実施後、関係機関と情報共有し、更なる連携を図る。

今後の展開

○成果の活用

- ・今年度のまとめを関係諸機関や他課室に配布し、事業の重要性を働きかけるとともに、自然の家の活用や本事業の開催について、周知する。

○次年度の予定

- ・不登校や不登校傾向の児童生徒に対して、今年度規模で自立支援事業の実施を予定している。
- ・児童生徒だけでなく、併せて保護者の交流、親の学びの機会を検討している。